

哲子の部屋

施術について疑問に思っている事など、江副哲子先生にお伺いしました。

Q: 乳がんの患者さんに温熱施術時の注意は？

A: 乳がんや子宮がんなどホルモン系の病気には、**基本治療 + 副腎 + 甲状腺 + 十二指腸にしっかり注熱して下さい。体温を上げて免疫力をアップさせるよう**促して下さい。

Q: 手術後はどのくらいたてば温熱治療を再開してよいのでしょうか？

A: 基本的には退院してすぐに始められます。

Q: 傷跡は塞がってからですよね？

A: 本人が怖がっている時は無理をしてはいけません。いきなり傷痕にふれなくても、周囲への注熱は大切です。**手術後は体力・免疫力もダウンしていますから、体温を上げて免疫力アップを目指すよう、基本の温熱しっかり入れて下さい。**

これは骨折なども同様です。ギブスが取れたらすぐに温熱をかけましょう。個人差はありますが、回復は早くなりますよ。

Q: 今まで温熱施術で『ガン』の発見例はありますか？

A: 勿論ありますよ。異常な熱の入り方だったり、のけぞるような痛みを訴えたりしますから、すぐに気がつきます。

Q: そんな時はどう対応しますか？

A: まずは検査をそれとなく勧めます。患者さんの気持ちが不安にならないように、重く暗くならないよう、言葉を選んで伝えます。例えば「何ともしなければ良いのだけれど、確認の為に一応検査を受けてみませんか？」などという風に。

又、ガンと診断されて来院した方が、温熱をかけてみると、実は「**ガンモドキ**」だったこともあります。今も手術もせずに、お元気で温熱治療に通ってこれている方もいますよ。

Q: 温熱療法士の先生方に伝えたい事は？

A: 言葉を選んで、患者さんが自分の身体・生命として自立して考えられるように、導いて行って欲しいと思います。ガン=死ではなく、病気になったことをポジティブに捉えられるようになって、正面から向き合えるようになってきます。そうすると生きる気力が湧いてきますから。

病気を気にするな！

どうってことないよ！



不安になって訪れる患者さんが、現実をしっかりと認識して、少しでも元気を取り戻せるよう、私達温熱療法士が出来る事を考えてみましょう。



国立科学博物館人体展より
脾臓の免疫細胞

夏場の冷房対策に

記録的な猛暑・酷暑と言われた今年の夏。熱中症対応に追われた夏でしたが、実は夏こそ冷房対策、冷え対策が必要です。足下、首下を意識してみてくださいは如何でしょうか。

太い血管がある足首、手首、首を温めると効果が早く出ます。首を温める→脳に行く血管が温まると、「脳は身体が温まっている」と判断し、末端の血管を収縮しないので、手足の冷えが起こりにくいそうです。

レッグ・ウォーマーや、スカーフやショールなど長時間乗る電車や車、オフィス、自宅でもじっとしている時間が多い方ほど、必要なアイテムかと思えます。夏を元気に過ごして爽やかな秋を迎えるためにも。

温熱施術をしている時、迷ったり困ったことはありませんか？そんな時はどうされていますか？

今回、紙面を通して悩みや体験、工夫などを共有したいと思い、江副先生に質問を投げかけてみました。

患者さんが安心して病気と向き合うためにも、療法士の方々の意識と言葉の一言、一言がとても大切なことを、改めて認識しました。

私の温熱体験

東京・新宿区 山口みつ子

3年前、温熱と出会った私は今、元気で働いている。医師から「S状結腸ガン ステージ3、余命3ヶ月」と宣告された。余命の3ヶ月間で何か出来ることはないか、探した。友人から健寿の存在を聞き、連絡を入れた。電話口の江副先生の声を聞いた私は「これは助かるのではないか」と感じた。手術を1ヶ月延期し、週1回健寿に通い、自宅では毎日温熱治療器を使って、身体に熱を入れ続けた。先生による施術は熱さを乗り越えて、痛かった。でも、身体が温まることで精神的に落ち着き、眠っていた細胞が動き出すような、不思議な感じがあった。手術後、見舞いに来た友人たちが、私の元気な姿を見て驚いていた。私からパワーを貰った気がすると言われた。しかし、リンパ節への転移があったので、抗がん剤治療が開始された。1サイクル終わった時点で、副作用が早く出始めたので、私の判断で抗がん剤治療をやめ、温熱のみでいく事にした。主治医からも、私には抗がん剤は要らないかもしれないと言われた。それからは健寿での施術と、自宅での温熱を平行して行った。その後の検査で3mmのポリープが見つかったが、半年後には消えていた。以前、咽頭痛や頭痛、不眠等に苦しんだ私だったが、今は全く薬いらずになっている。そして身体が温まると、気持ちが楽になる。温熱は私の闘病の支えになっている。

温熱療法師向けNPO主催の勉強会

日時：2018年10月14日(日) 13時~16時

会場：北区「北とぴあ」8階802会議室B

住所：〒114-8503東京都北区王1-11-1

参加費 無料

定員 27名(定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい)

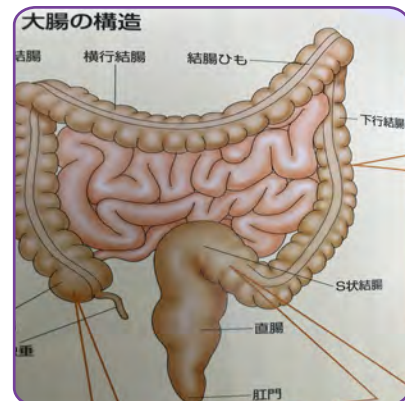
- セミナーの内容：
温熱製品に関する説明会
温熱器や温熱マットの性能や使い方、販売などについて

- 講師：芳賀孝行氏

質疑応答

- 説明会終了後、日頃の温熱施術の疑問点や体験談などシェアし、意見交換をします。大勢の療法師の先生方のご参加をお待ちしています。

問合せ、申込は東京健寿館まで
Tel.043-253-8843 Fax.043-253-8845



S状結腸は直腸の手前にあります。

睡眠と体温の話 正常な体温は36.5℃

ぐっすり眠るためには、体温が下がることが必要です。交感神経と副交感神経のバランスがよい時は、体温の差が大きくなります。

ぐっすり寝ていない人は体温が下降せず、眠りっぱなしの人は下がった体温が上昇せず、どちらもその差が小さいのが特徴です。日頃の体温をチェックしてみませんか？

新しいホームページが出来ました。

アドレスは mitsuionnetsu.jindo.com

トップページに温熱療法のご紹介や江副先生へのインタビュー、温熱初体験漫画や療法師の先生方のご紹介も出ています。温熱通信のバックナンバーもここからご覧になれます。(HP担当・里見)

編集後記

温熱通信を担当して1年が経とうとしています。遠距離恋愛のように沖縄・茨城・東京と年に顔を合わせるの4~5回でしたでしょうか。メインの記事を何にするか悩み、思うように原稿が集まらない時はあせったりもしましたが、そんな時にはいつでも助けてくれる方が出現しました。至らない私達でしたが、温熱療法の良さをお伝えしたい、各地の皆様をつなぐことが出来たらと願いながらの編集作業でした。各地からお寄せ頂いた皆様の貴重な体験談や写真、アンケートなどご協力に心から感謝しています。1年間有り難うございました。(田口・山城・子松 記)